

第3回 令和7年8月10日からの大雨時における排水機場等の稼働状況等 に関する検証委員会議事等（要約）

1. 開催日時 令和7年（2025年）11月4日（月） 10:00～11:30
2. 開催場所 熊本市役所議会棟 2階議運・理事会室
3. 公開又は非公開の別 非公開（冒頭のみ公開）
4. 傍聴者数 なし

5. 議事に対する発言等要約

- (1) 事務局より委員の出欠を確認し、会が成立していることを報告
- (2) 議長より以下の議事を進行

【事務局】

前回の振り返りの説明

【委員】

停止原因のまとめに対する機械設備的な観点からの考察、両排水施設が停止に至った要因、並びにプロセス等について、総括をお願いする。

【委員】

山ノ下排水機場については設置されているポンプ及び除塵機は一般的な仕様であった。被災前の故障や不具合はなかったが、施設の冠水により除塵機後方から異物が入り込み、ポンプ噛み込みにより過電流が発生し、安全装置が作動したことによって停止したことが現場の状況写真・レベル測定記録から間違いないと考えられる。

坪井ポンプ場については屋外受電盤のGL以上の冠水により電気設備が短絡焼損したことにより電源を喪失したことが現場状況写真・レベル測定記録から間違いないと考えられる

【委員】

外部からの水の侵入によるものであるので、水はどこから来たのかが大事である。今回の件はポンプが停止する前に既に広範囲に浸水していた。その原因はポンプを含め当該地域の排水能力が不足していたと考えられる

【事務局】

山ノ下排水機場に関してはポンプが停止する前から周囲に浸水があったということはカメラ等で確認できている。排水能力をあげるための整備に着手している

【事務局】

坪井ポンプ場周辺で浸水が確認されている。坪井ポンプ場の排水区域に関しては 3.34ha と狭い区域であるが、今回の浸水実績を鑑みると外部から水が侵入してきたと想定される。

今後、合流区域内のシミュレーションを実施し、今回の浸水原因検証を考えている

【委員】

前回の議論では坪井ポンプ場は 3 つの原因が挙げられている。1 つはポンプ能力が不足している。2 つはポンプの排水能力を超えた水は自然流下方式で坪井川に排出する仕組であったが坪井川の水位が高くて自然流下できなかった。3 つ目は排水区域外から水が入ってきたことの 3 点と考える

【委員】

今回の雨は計画降雨を超える大規模なであったので、時間的・予算的尺度を踏まえると、ソフト的な要素も併せて取り組んでいく必要がある

【委員】

今回のような記録的短時間大雨、それに伴う急激な浸水により引き起こされた今回の状況ですが、一連の熊本市の対応と整合性などについて、総括をお願いいたします

【委員】

山ノ下排水機場について、平時における点検は適切に実施されており、メンテナンスという面においては問題なかった。当日も大雨警報発令後は水防業務行動マニュアルに沿った対応がされており、12 時 30 分にはマニュアルに沿って巡回されていて 2 時 23 分のポンプ停止時は現場確認するために当該施設に向かっている。これらの対応は、マニュアルや操作要領、運転管理業者との仕様書に沿ったものであった。また、当日はポンプ停止前から浸水発生しており、停止後に運転管理業者が現場確認をするために施設に向かっているが、敷地周辺が浸水しており、その場の現場確認が見送られ、担当課に報告をされていることも仕様書に記載されている「身の危険が生じる恐れがある場合」に相当すると判断できるので、当日の現場対応はやむを得ない対応であったと考える。その後の排水ポンプ車の借用依頼や施設点検から冠水状況確認までの対応についても、その場で出来た状況に対する対応としては問題ないと考える。運転管理業者から現場確認不可の報告を受けて水防本部等への連絡はどのようにされたか確認したい。また、近隣住民に避難を促す周知も大事である。

改善点は操作要領等の見直しを図ってほしいと考える。また、水防業務行動マニュアルの業務フローの中に本部との関係の記載もあった方がよい。

前回資料のあった業務計画書の中で巡回が 1 名となっている。今回のような災害時は 1 名でいいのかという検討が必要。

坪井ポンプ場に関しては山ノ下排水機場同様、平時における施設点検やメンテナス等は問題なかったと考える。当日の大気警報発令後も水防体制に入っていたり、2 時 18 分の施設の状況が確認できなかったのちには、上下水道局の水防体制要領に基づいた対応がなされていたことが確認できた。また、当日はポンプ停止以前から浸水が発生しており、確認のために職員が向かったが、周辺が冠水しており、現場に近寄ることができず班長の判断で退避したについては、浸水時におけるマニュアルはなかったが、山ノ下同様「身の危険が生じる恐れがある場合」と判断されるので当日の現場対応としてはやむを得ないと考える。

マニュアルを整備される際は個々人の対応まで落とし込むところまで検討していただきたい

【事務局】

確認の方法について、現場に運転管理業者が向かってその後は電話での連絡で状況確認等は行っていた。連絡を受けて市から運転管理者に対応を指示していた

【委員】

二次災害も考えられるので、本部との連絡及び周辺住民への周知は重要であるが、今回の災害に関してはどのように行ったか

【事務局】

これまで連携が取れていなかった、今後マニュアル等を含めて見直しを行う

坪井ポンプ場に関してはその場で班長判断にて退避している。マニュアルに水位等の退避基準が定められていないので、できる限り整備を行う。水防本部に関して当時現場に向かったのが中部浄化センターの職員であり、中部浄化センターには報告していた。しかし、そこから上への報告がなかったのでその点についても整備する

【委員】

ポンプ場が停止した際の近隣住民への避難勧告は、水防本部との連携も重要である

【委員】

情報が限られているので、ポンプの排水能力、停止時間、防災カメラの記録、現地の痕跡調査に基づいて、ポンプが正常に稼働していた場合の浸水への影響を評価したところ、両施設とも数センチ程度の影響があったと推定されている。

【委員】

詳細を検討するにはいろんなデータが必要になるので、報告書等でまとめる際はどの条件のもとで整理したかを記す必要がある

【事務局】

山ノ下排水機場の影響を考察する中でデータとなるのは、山ノ下排水機場のポンプ・水位の記録、また、対岸にあります小山田雨水ポンプ場のデータ、上熊本2丁目付近市道にある防災情報カメラによる水位動きを基に数センチを出している。

坪井ポンプ場周辺の浸水に関しては、浸水想定の区域を設定し、ポンプの能力から影響を判断している。現在、合流区域内のシミュレーション解析業務を発注しており11月中旬以降に結果が出ると考えている。それを踏まえて浸水区域をある程度確定し、影響についても今後検討する。現時点では推定の影響である。

【委員】

事務局から示されている再発防止策についてはいかがでしょうか

【委員】

国事業においても阿蘇立野ダム等ハード整備については時間がかかるので、中長期対策の事業効果を確実に実現させるためにも優先順位をつけて着実に整備して欲しい。また、ワン

コインセンサや浸水想定区域図を活用されて浸水状況を住民の方に周知する等のソフト対策も織り交ぜながら事業を実施して欲しい。

【委員】

山ノ下排水機場の再発防止策でワンコインセンサの活用方法について、登録して通知が来るものなのか、補助金によるものなのか。

【事務局】

ワンコインセンサについては本市でも冠水被害があった箇所に設置している。ワンコインセンサ設置の高さまで浸水した場合にホームページ(以下 HP)上で確認ができるものである。

上下水道局においても下通アーケードで浸水が発生しているので、現在発注している委託業務で水位計等をマンホール内に設置することで下水道の水位を周知ができる対策を検討中である。

【委員】

ワンコインセンサは短期対策になるので早期に実現して欲しい。住民視点で考えると、不安の解消にもつながるので短期的対策及び中長期的対策の有用性について意見をいただきたい。

【委員】

排水能力強化や耐水化は計画があり実施段階と説明があった。市民感覚としては計画の進捗がなぜそんなに時間がかかるのかが感じられるところである。行政における時間軸と市民感覚の時間軸では乖離があるのが要因と考える。それを解消するには計画や実施状況についても丁寧かつ十分な情報提供を再度検討して欲しい

【委員】

下水道では令和元年度長野県で千曲川流域の河川氾濫を受けて、全国的に施設の耐水化計画を策定されており、熊本市上下水道局では策定されている。河川部や農政部では耐水化計画を策定しているのか。

【事務局】

河川については今後検討する。農政部については、熊本県と連携して進めている

6. 今後の予定について

第3回までの議論を基に事務局にて中間答申案を作成。11月中旬に手交予定